

科目担当者氏名 (ふりがな) はらしま まさゆき 原島 雅之		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
連絡責任者氏名 (ふりがな) ひろせ つよし 廣瀬 毅士 印		科目設置機関名 立教大学 現代心理学部 心理学科	
授業科目名 社会調査演習	科目認定番号 RIKm-130701-0	受講者数 26	

Ⅰ. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

調査テーマの設定、先行研究についてのサーベイ、仮説の構築、調査票の作成（質問項目の選定、予備調査から印刷まで）、実査、データ入力、集計および分析、そして報告書（期末レポート）の作成といった、社会調査の実施に関わる全ての過程において受講者達は積極的な役割を果たした。調査の最初の段階から最後に至るまで、学生は主体的かつ意欲的に取り組み、調査を実施することができた。

Ⅱ. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：「大学生の日常生活と心理的屬性」という大きなテーマをもとに、学生同士のディスカッションによって具体的なテーマを設定させた。学生の興味関心から、SNS の利用と消費者行動、学習意欲と規範意識、精神的健康とパーソナリティといったサブテーマが決定された。

2. 調査の内容/概要：

大学生が日頃よく経験する日常の様々な場面における行動と、それに関わるいくつかの心理的屬性について明らかにすることを目的として、上記に挙げたテーマをもとにした調査を実施し分析を行った。

3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：

都内の私立大学生を対象とし、あらかじめいくつか選んだ授業の候補の中から、調査実施の了承を得ることができた授業において配布および回収を行った。有効回答数は 350 名であった。

4. 主な調査項目：

Twitter の利用頻度、衝動購買に関する質問、学習意欲尺度、規範意識尺度、孤独感尺度、ランチメイト症候群尺度、パーソナリティ尺度 (外向性) など。

Ⅲ. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：

授業中に調査票を一斉に配布し、その場で回答を求め、回答終了後に回収を行った。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

調査時期：2013 年 10 月 調査地：東京都内の私立大学 調査員の数：受講者 26 名

7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：

調査票の配布数 480 に対して有効回収票数は 350 であり、回収率は 73% であった。回収された調査票の回答は丁寧であり概ね良質であったが、無作為抽出を行うことができなかったため、学部や学年については若干の偏りがみられた。

Ⅳ. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：

得られたデータは、t 検定、分散分析、相関分析、重回帰分析、因子分析などの手法を用いて分析を行った。分析結果をもとに、先行研究の知見を踏まえつつ、回答者の偏りなども考慮して解釈を行った。

9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：

友人や教員との対人関係の質が大学での学習意欲に影響を及ぼしていた。規範意識や衝動購買の傾向については男子大学生よりも女子大学生のほうが高い傾向がみられた。Twitter の利用と外向性や孤独感との間に関連はみられなかった。

10. 報告書刊行の予定と概要：

特になし

< 記入上の注意点 > 1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて (3 つのテーマを立てて実施した場合は合計 3 枚に渡って) ご記入下さい。

2. 最上部の*印の箇所には数字を (*/*) には、報告書が複数枚になる場合のみ、3 枚中の 1 枚目なら 1/3 とご記入下さい。

3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1 テーマ毎に印刷が必ず A4 サイズ 1 枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず (設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。

4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報を DB 化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。